

北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会
 〒803-0817 北九州市小倉北区田町13-21 田町ビル3F
 TEL093-592-5000 Fax093-571-4346
 E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

全国革新懇「三つの共同目標」

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

11月18・19日に革新懇全国交流会開催。 北九州から8名が参加

11月18・19日、2017年革新懇全国交流会が愛知県刈谷市で開催されました。全体で1568人の参加。北九州からは小倉南革新懇2、若松革新懇1、八幡西革新懇2、戸畑革新懇2、北九州革新懇1の計8名が参加しました。参加者の感想文を掲載します。



(写真)地域・職場・青年革新懇全国交流会18日、愛知県刈谷市

「革新懇全国交流会in愛知2017」に参加して

戸畑革新懇 青木 信恭

「地域・職場・青年革新懇全国交流会 in 愛知」が11月18日、19日の二日間にわたって開催されました。メイン・スローガンに掲げられたのは「『市民と野党の共闘』の新たな発展を。安倍内閣を倒そう。憲法9条を守り抜こう」。わたしは、18日刈谷市総合文化センターでの「全体会」、19日は名古屋市「労働会館」の特別分科会「『市民と野党の共闘』で政治を変えよう」にそれぞれ参加しました。2会場での「報告」や「発言」「意見交流」を通じて学び、感じたことを記します。

一つは、総選挙での野党共闘勢力の前進の意義と日本共産党の果たした役割についてです。全体会であいさつした「市民連合」呼びかけ人の広渡清吾さんは「衆院選で狙われた



のは日米合作による改憲と安保法制推進の

『保守二大政党』づくりのもくろみだった。しかし、共産党がぶれず、ゆるがず、たじろがず共闘の旗印を鮮明にし、共闘の実績を支えに立憲民主党が立ち上がった。3野党と市民で心機一転の共同が結成された」と述べ、改憲勢力のもくろみを打ち破ったと強調しました。共産党の志位和夫委員長は「選挙戦までの短い期間のなかで共闘の再構築ができたのはなぜか」と問いかけ、「全国に草の根での市民の頑張り」をあげて、「候補者のなかには一時は『希望の党がいい』と言う人もいたが市民の側から強い働きかけがあり、共闘の道を選んだ」(市民連合@新潟)ことなどを紹介、さらに共産党が「共闘の危機という緊急事態のなかで67の小選挙区で候補者をおろす決断をした」と強調しました。安倍政権を打倒し、政治を変える力、大道は「市民と野党の共闘」＝統一戦線の発展・前進にあるとの思いを新たにしました。

二つ目は、安倍9条改憲NO!国会発議を阻止するたたかいを北九州でも、戸畑区でも市民の多数派を結集する規模に前進させなければならない、そのために知恵と力を集めなければならないという思いを強くしました。具体的には「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」がよびかけた「3000万全国統一署名」に総力をあげることで、全国革新懇

は、すべての革新懇組織が目標をもって取り組もうとよびかけました。戸畑革新懇も加わっている「アベ政治ノー!平和のための戸畑行動委員会」は「全国市民アクション」のよびかけにこたえて戸畑区で人口の25%にあたる15000筆を署名目標とすることを決めました。この取り組みを「一点共闘」「市民と野党の共闘」を発展・前進させる見地で知恵と力を尽くしたいと思っています。

最後に、今度の「全国交流会」には戸畑革新懇から「戸畑けんわ病院」の23歳の青年が参加してくれました。青年の参加は、戸畑革新懇を2010年10月に再建して以来初めてのことです。「一点共闘」の「要」、政治を変える統一戦線の「かけ橋」の役割を担う革新懇運動と組織の発展のために微力をつきたい。



全国革新懇交流会参加の感想

小倉南革新懇 石橋 近

《全体会の感想》

愛知県刈谷市の総合文化センター大ホール



に集まった参加者1568人には「すごい、たくさん来たんだなー」と思った。

代表世話人の小田川全労連議長の「問題提起と報告」は、今回の衆議院選挙で、民進党と希望の党の「野党共闘」分断の攻撃に対して、全国各地で野党共闘がどのように再構築されたかを詳しく述べ、革新懇が総選挙で果たした役割を前面報告しましたが「今までの交流会と全然違う、共産党の選挙報告会みたいだ」と思った。

志位共産党委員長の特別発言も、先日の中央委員会の報告に沿ったもので、私には新鮮味に欠けるものでした。

ミサオ・レッドウルフさんの「解散・総選挙がジェットコースターのように目まぐるしいものでした」の発言は新鮮に感じた。その他の市民連合の広渡さん、総がかり実行委員会の高田さんなどの発言も共産党の素早く思い切った対応を称賛していました。青年革新懇からの発言者は「共産党の青年支部みたいだな」と思いましたが、もともと革新懇を立ち上げたきっかけが80年代に社公合意で革新政の共闘ができなくなったからだったの

で、この交流会こそ、革新懇の目的を達成したものだと思い、小倉南革新懇の活動（学習会や街頭宣伝行動だけ）はまだ初歩の段階なのだと思えました。

《分散会》

分散会には、共産党の県委員長とか県書記長なども参加していて活発な議論がされました。「野党統一候補のため、選挙カーの運行とか要員の準備とかしなくてよかったので、スタンディング、電話かけなど気楽に楽しく活動できた。比例の得票も選挙区候補のいたるところと比べて遜色なく、よかった。」という発言が印象深かった。

2017年革新懇全国交流会in愛知に参加して

入職して半年余りで日本共産党の理念や現在の政治問題、憲法改悪などについて、多くのことを学ばさせていただきました。革新懇運動についても、10月に知ったばかりであり、今回参加することができ、とてもためになりました。私自身、福島の実況や沖縄の基地問題に関心があり、現地へ行き自分の目でどのような状況であるのか、現地の方々の声

健和とばた病院 鴨崎 隼人も聞きました。総選挙もあり、原発問題が後回しにされており、沖縄でも現地の方々の必死な声が届かず、海などの美しい自然が破壊され続けています。私の勤めている病院でも、憲法改正反対の署名などを行っております。このような署名運動に積極的に参加し、より良い世の中にするため尽力していきたいと思えます。

2017地域・職場・青年革新懇全国交流会(愛知刈谷市)感想

小倉南革新懇 事務局長 黒坂佳男

11月18日～19日の両日、全国革新懇交流会が愛知県刈谷市総合文化センターで開かれました。会場の横断幕には「市民と野党の共闘」の新たな発展を。安倍内閣倒そう。憲法9条を守り抜こうと掲げられ、全国各地から1500余人の参加者がつぎつぎと詰めかけ「愛知のうたごえ」が響く中、会場いっぱいの参加者であふれていました。

池田香代子さん（代表世話人）の開会あいさつに続いて、各代表の連帯あいさつ、首都圏反原発連合のミサオ・レッドウルフさんが、民進党の分断の中から立憲民主党が生まれ、



共産党にとっては、「負けて勝った総選挙」。また 2012 年から始まった官邸前抗議行動は「もうじき 270 回」と紹介されました。市民連合の広渡清吾氏は『希望の党』は保守 2 大政党づくりのもくろみであった。市民連合は市民と野党が共闘するプロジェクトである。野党のつながりの中で市民の政治参加をつくり、安倍政権を倒す 3000 万署名をさせよう」と連帯あいさつを行いました。総がかり実行委員の高田健氏は「結成されてから間もなく 3 年、民進党が分裂、立憲民主党が野党第 1 党を維持できたことは大きい。『増援多心』(人数を増やして援助すること)運動の中でその正しい方針を信頼し、活動を前進させていこう」と呼びかけられました。特別報告では、代表世話人の小田川義和氏から「問題提起と報告」があり、「安倍暴走政治を打ち破る新たな決意を固め会おう」安倍 9 条改憲、沖縄辺野古新基地ストップなど、要求に基づく共闘めざし革新懇づくりをすすめようと呼びかけられました。引き続き一橋大学名誉教授の渡辺治氏が「若者にも改憲 No の声を広げよう」、オール沖縄会議幹事の渡久地修氏が①県民のたたかい②司法のたたかい③総選挙でのたたかいに触れ、オール沖縄での闘いについて「保守派と革新派がお互いを尊敬して、信頼関係を築き、意見を聞き、活動を反映することが共同発展のために重要」だと述べられました。最後に志位委員長が日本共産党を代表して、総選挙の結果と革新懇運動について、草の根の共闘が発揮され、革新懇運動の役割として「市民と野党の共闘」、「三つの共同目標」を国民多数に広がる努力をはかることが強調されました。

討論では、地域革新懇、職場革新懇、新日本婦人の会、青年革新懇など 13 の代表が地域での活動や民進党の分裂「希望の党」の逆

流の中での総選挙の取り組みなどが報告されました。沖縄革新懇からは来年 2 月 4 日投票の名護市長選があり、自民と一騎打ち、稲嶺市長勝利に向けてのオール沖縄のたたかいが報告されました。

2 日目は、金山労働会館で、9 つの分散会と職場、青年、特別分散会に分かれ討論、経験交流が行われました。私は「市民と野党の共闘」の第 4 分散会に参加しました。千葉革新懇の柴田氏から、革新懇の役割、地域との市民連合の果たした役割について問題提起があり、埼玉市緑区の革新懇、奈良県革新懇、東京(日野市)など、13 の地域革新懇から参加した全員が発言しました。発言内容は全体的に、総選挙での市民連合の果たした役割、民進党が「希望の党」に流れ「野党共闘の裏切りに対してどう闘ったのか」の報告が多かったと思います。私自身、福岡県の市民連合の動きがつかめず、福岡 3 区の立憲民主党、福岡 10 区、11 区の社民党との共闘が取り組まれたことを報告しました。討論会の内容が全体として、市民連合を中心に自治労や教組など連合に取り込まれ、連携していくのが非常に困難な状況にあることが報告されましたが、そのような中でも新社会党、社民党、緑の党、自由党の連携が求められており、革新懇の役割が重要になっていることが述べられました。残念だったのは、一つ一つの地域革新懇が日頃どのような活動を行い、市民とどう繋がってどんな活動しているのかの経験が少なく、これからの活動に生かせる討論になればと思いました。今回の交流会で学んだことを北九州革新懇、小倉南革新懇でも生かし「市民と野党の共闘」の要として、小倉北区にも革新懇が結成されるよう頑張りたいと思います。

地域・職場・青年革新懇全国交流会in愛知2017に参加して

西区革新懇 嶋 國勝

八幡西区革新懇は結成から 6 年となります。この間、革新懇全国交流会は、大阪市堺市・千葉市で開催され、今年の愛知(刈谷市・名古屋

市)が初めての参加でした。

18日、「革新懇全国交流会」全体会は、愛知県刈谷市「総合文化センター」で開かれた。

昼過ぎ、北九革新懇の参加者8名と共に会場に到着した。全国各地の革新懇から仲間たちも続々と集まり、会場のホールはたちまち参加者で一杯となった。全国革新懇の勢いを感じた。

愛知のうたごえ・和太鼓演奏は、激動する情勢のなかで「市民と野党の共闘の新たな発展を」と、結集した仲間たちを大いに鼓舞するオープニングでした。全体会の参加者は1568人と発表され、革新懇はすごいなと感動しました。

開会挨拶に続いての連帯挨拶では、ミサワ・レッドウルフさん。市民連合の広渡清吾さん。総がかり行動委の高田健さんの3氏から、立憲民主党の躍進は野党共闘の成果だ。革新懇が大きな役割を果たした等、力強い連帯の挨拶に元気をもらった。

小田川義和(全国革新懇代表世話人)氏の「問題提起と報告」は、八幡西革新懇のみなどで討議、学習し今後の活動に活かしたい。

特別発言は、渡辺治氏、渡久地修氏、志位和夫氏から市民と野党の共闘前進、3000万署名の成功、沖縄連帯の闘い、革新懇の役割について(三つの共同目標を国民合意へ努力)等が強調された。

2日目、19日は午前中「分散会・分科会」が名古屋市労働会館などで開催された。「分散会」は1～9まで各室20名程度。第6分散



会に参加した。

課題は、①市民と野党の共闘の発展をめざして、②革新懇の経験交流でした。

各地の様々な活動を聞き、八幡の活動経験も報告し交流できてよかったです。最後に、今回の「全国交流会」参加を契機に革新懇活動が前進するよう頑張ります。

地域・職場・青年革新懇全国交流会in愛知に参加して

私は革新懇全国交流会に初めて参加しました。

以前から一度はとっていました、今回の新聞報道を見て是非とも参加したいと申し入れました。快く参加を認めていただき大変ありがとうございました。

今回の全国交流会は衆議院選挙の結果を受け、全国各地でとりくまれた「市民と野党の共闘」の経験が語られた貴重な交流会だったと思うとともに、その経験を地元でいかに生かしていくかが問われていると考えています。

私が感銘したのは、特別発言をされた一橋

八幡西革新懇・原田里美

大学名誉教授・渡辺治さんの発言です。

渡辺さんは、かつてない市民の共同によって「安倍改憲対市民と野党の共闘」が進み「日本の政治は共同の時代に入った」と話され、共闘を広く根付かせて安倍改憲を阻む大きな共同を呼びかけました。

当面の目標として、①3000万署名で発議を許さない。②自衛隊を9条に明記する危険性を広く知らせる。③9条改憲ノーの声を若い人たちに広げよう、と提起しました。また「9条の会」が組織として初めて呼びかけに応じ、市民アクションに参加したことが



紹介され大きな確信となりました。

全体会や参加した特別分科会では、参加者

からの熱のこもった発言や時には時間を大幅に超過してもたじろがない活動報告に圧倒されたところもありましたが、全国の津々浦々で選挙を通じて広がった共同・共闘の教訓にも学んで、地元での取り組みが出来ればと感じたところです。

最後に、私たちのこの間の活動でも9条改憲に不安を持つ人、「戦争は絶対にだめ!」と切実に訴えられる人はたくさんおられます。

「安倍改憲を許さない」の一点で、渡辺治さんが提起した当面の3つの目標に向け幅広い人たちとの学習や共同した運動を起こしていけるよう、みなさんと力を合わせ頑張っていきたいと心新たにした全国交流会でした。

2017革新懇全国交流会in愛知に参加して

11月18・19日名古屋市で開催された革新懇全国交流会には北九州から8名が参加しました。2年前の千葉市での交流会には6名の参加でしたから今回は2名増の参加となっています。

刈谷駅から徒歩2分という会場は、高齢の私には嬉しい会場でした。正面に今年のスローガン『市民と野党の共闘』の新たな発展を。安倍内閣を倒そう。憲法9条を守り抜こう』が掲げられた会場には1600名を超える参加者で超満員となりました。

3名の来賓挨拶で驚いた話があのです。首都圏反原発連合代表のミサワ・レッドウルフさんの話でした。2012年3月に始めた反原発の金曜官邸前抗議行動はまもなく270回を迎えるが、財政赤字のため、6月に壱千万円のカンパを訴えたが近く目標達成とのこと。僅か数か月で1000万円のカンパが集まる反原発の国民のエネルギーに本当に驚きました。

2日目は、「市民と野党の共闘で政治を変えよう」の特別分科会に参加したのですが、発言者に共通していたのは、市民・市民運動の側から候補者に対して「希望の党に行くな」と様々な形で働きかけていることでした。市民

北九州革新懇 須崎 和幸

連合や市民の候補者への働きかけの行動によって、統一候補と政策が出来上がり、政権選挙としての総選挙で「市民と野党の共闘」を実現させて選挙を闘い、勝利を掴んだとのことでした。

これまでの選挙は政党・候補者が政策を訴え、国民・有権者は選択するという有権者の態度は受動的なものでしたが、今回の総選挙では、有権者、市民団体が政策を作り、候補者の政治姿勢をあらためさせて総選挙を闘う。という経験が広く実現し、新しい選挙・政治活動が展開されたのではと思いました。地方自治体の首長選挙では経験ありましたが、政権選挙としての総選挙でのこの形態は、政治革新を目標とする革新懇にとってまさに革新懇らしさの闘い方だと感じました。

北九州では、民進党の候補者が「希望の党」からの立候補を宣言しても、それは選挙共闘の破壊につながる、ダメになる、「希望の党」にはいくなと声をあげて働きかけるなどの行動は生まれませんでした。この運動の違いはどこから来るのか。全国の経験に比べて運動の遅れを感じました。今後の活動の課題だと痛感したところです。